

## ～ 学校医からのお知らせ ～

### 新型コロナウイルス感染症（追加接種[3回目]編）

★ワクチンに関する情報収集をする時は、発信元が信頼できるかどうかを確認しましょう。

新型コロナウイルス感染症の流行は、現在、オミクロンが主流株になっています。オミクロンは従来株より重症化はしにくいものの、感染力は強く、無症状で経過した場合でも、罹患後症状(後遺症)を生じることがあります。



< ワクチンの効果(免疫の獲得)：「発症予防」「重症化防止」 >

感染症の予防については、公衆衛生上の対処の他にワクチン接種が大変有効です。

免疫には、発症予防と重症化防止の効果があります。しかし、時間の経過とともに低下します。

初回接種(1・2回目)により重症化防止効果はかなり残っていますが、発症予防効果は半年後には約10%にまで低下します。追加接種(3回目)は低下した発症予防効果を著明に改善するだけでなく、重症化防止効果も増強します。

ワクチン接種は、自身だけでなく、集団免疫として周囲の重症化リスクが高い方、諸事情により接種できない方たちを守ることもあるので、ぜひ、追加接種をうけましょう。

なお、接種に迷われている方のためにQ&Aを設けましたので、参考にしてください。また、個別の相談を希望される方は、保健室で校医健康相談の予約をしてください。

## 新型コロナウイルスワクチン Q&A

**Q. 新型コロナウイルス感染したことのある人は、ワクチンを接種することはできますか。**

**A. 感染した方も接種することができます。また、接種した方がよいです。**

新型コロナウイルスは一度感染しても再度感染する可能性があるため、ワクチン接種は有効です。

自然に感染するよりもワクチン接種の方が、新型コロナウイルスに対する血中の抗体価が高くなること、多様な変異株にも抗体ができることが報告されています。

「感染して療養期間を終えて」から「接種をするまで」の期間については、結論は出ていませんが、3か月が一つの目安となっています。期間を空けずに接種する場合は医師に相談してください。

**Q. 追加接種(3回目)の副反応は、初回接種(1・2回目)より重いのでしょうか。**

**A. 初回接種と比較して副反応(注射部位の痛み、倦怠感、頭痛、筋肉痛、発熱、関節痛など)の発現傾向は概ね同様とされていますが、追加接種では腋窩リンパ節の腫れが報告されています。**

追加接種後1～4日に認めますが、ほとんど軽度で短期間に改善します。

なお、比較的重い副反応である心筋炎の発現傾向はまれといわれていますが、もし、数日以内に次の症状がある場合は速やかに医療機関を受診し、接種したことを伝えてください(症状：胸の痛み、動悸、息切れ、むくみなど)。

< 予防接種被害救済制度があります >

予防接種では健康被害(病気になったり障害が残ったりすること)が起こることがあります。

極めてまれではあるものの、なくすことはできないことから、救済制度が設けられています。  
申請に必要な手続きなどについては、住民票がある市区町村にご相談ください。

**Q. 私は基礎疾患（持病）を持っていますが、ワクチンを接種することはできますか。**

A. 「重症化リスクが高い方(※)」は追加接種により、発症予防効果があります。

「重症化リスクが高い方」との接触が多い方も感染のリスクを考え接種をご検討ください。

接種にあたっては、あらかじめかかりつけ医などによく相談してください。

(ワクチン接種は体調のよいときに受けるのが基本ですので、病状が悪化していたり、全身が衰弱している場合は避けた方がよいと考えられます。)

※「重症化リスクが高い方」…高齢者、基礎疾患を有する方など

(基礎疾患については、以下を参照してください。)

[https://www.cov19-vaccine.mhlw.go.jp/qa/uploads/220325\\_0098.pdf](https://www.cov19-vaccine.mhlw.go.jp/qa/uploads/220325_0098.pdf) )

**Q. 過去にアレルギー反応やアナフィラキシーを起こしたことがあります。ワクチンを接種することによりアレルギー反応を起こすのではないかと心配なのですが、接種は大丈夫でしょうか。**

A. 食物アレルギーや、アレルギー体質などがあるといった理由だけで、接種を受けられないわけではありません。

過去にアレルギー反応やアナフィラキシーを起こしたことがある方は、予診票に必ず記入してください。

また、原因物質(医薬品を含む)やその時の状況をできるだけ詳しく医師に伝えてください。

(治療中の方は、主治医に接種の可否について事前に相談することをお勧めします)

**Q. ワクチンを接種することができないのはどのような人ですか。**

A. 下記の項目にあてはまる場合は、かかりつけ医にご相談ください。

- ・明らかに発熱している方(※)
- ・重い急性疾患にかかっている方
- ・ワクチンの成分に対して、アナフィラキシーなど重度の過敏症の既往歴のある方
- ・上記以外で、予防接種を受けることが不適切な状態にある方

※明らかな発熱とは、通常 37.5°C以上を指します。ただし、37.5°C未満でも平熱と比較して「発熱」と判断される場合があります。



厚生労働省 3回目接種のお知らせ (高校生、大学生などの皆様へ)

[000927981.pdf \(mhlw.go.jp\)](https://www.mhlw.go.jp/000927981.pdf)

厚生労働省 新型コロナワクチン Q&A

[新型コロナワクチン Q&A | 厚生労働省 \(mhlw.go.jp\)](https://www.mhlw.go.jp/newcoronavaccine_qa)

もっと日本を。もっと世界へ。



國學院大學